

●支援経過 (R1年7月9日～ R2年3月10日)

課題	具体的支援	家	学校	放課後等デイサービス事業所A	放課後等デイサービス事業所B	放課後等デイサービス事業所C
① トイレトレーニング	自発的に行くことを増やす	サインは出ていない。1時間半持つこともある。トイレで数回、大便秘で成功した。つなぎパジャマなので、自発的にトイレに行くことはない。	ほぼ自立。1～2時間程度もつようになった。	学校からAに到着時、オムツに排尿していることが半数。排尿していない時は、トイレ誘導。自発が増えている。排便の成功も増えている。	1時間で誘導。自発的に行くことが増えている。自発サインはない。	1～1時間半で誘導。戸外活動中に、失敗することがある。自分でトイレに行くことが増えている。
② スプーン、フォークを使って食べる	スプーンに食べ物を入れておくと、自分で口に運ぶ。フォークに食べ物を刺すと、自分で口に運ぶ。	変化なし。熱々にしておくと、スプーン・フォークで食べる。(ぬるいと手で食べる)フォークを使うことが多い。	本人が食べだすと、スプーン、フォークを渡す。それ以降は、スプーン、フォークを使って最後まで食べる。	レンジで温めた唐揚げやカップラーメン(他の物を食べない時のみ)は熱いとフォークで食べる。(無理強いや声かけはしない)カップラーメンは指で熱さを確認する。サバが好き。	手づかみが多い。	トンカツはフォークに刺しておくと、自分で食べる。カレーはご飯とルーは別々に食べる。一口大にハサミで切る。フォークに食べ物を指しておく。座れる時間が長くなった。
③ 駄目を伝える	ことば、ジェスチャー、絵カードで伝える	ことばで伝えているが、かんしゃくが多い。	絵カードで「×」と「○」を提示している。何が駄目で、何がよいのかを伝える。	ことばで伝えているが、スタッフによって、効果が異なる。	ことばとジェスチャーで伝えている。	ことばとジェスチャー(絵カードの使用を検討する)だが、「駄目」を伝えることが少なくなった。
④ 胸を触らせないようにする	胸を触ってきた時は、本人の手を持って、他のところに持っていく。本人の気持ちを、他にそらす。大人が本人の身体を触ってあげる。等	触ることは減った。	集団の学習中に多い。隣にいる教師の胸を、笑いながら触ろうとする。	特定のスタッフ(週2回)にする。「駄目」と言い、その場から離れる。回数は減っている。	回数は減っている。胸に手がきた時に、本人の気持ちを紛らすように関わるようにしている。	ほぼ触らなくなった。
⑤ 本人から発信するコミュニケーション手段を増やす	好きな活動や食べ物等の写真カード等を使って、本人から大人に要求を伝える。	食べたい時は、本人からの要求がある。(クレーン・靴を履く・母親にバックを持たせる等)	本人の学習エリアに「遊びカード(写真)」をボードに10種類程度貼っておくと、本人が選び、教師に持って来る。(絵カード交換式コミュニケーション)	選択肢を増やす(おやつ等)	クレーンで要求する。必要な時は、スタッフが選択肢(実物)を提示する。パンやおやつを食べたい時は、「開けて」のジェスチャーをする。	コミュニケーション手段としては、絵カードを使用している。選択肢や支援者からの関わりの時なので、今後本人からの表出手段として利用できればと考えている。